

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 7 日現在

機関番号：82723
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2009～2011
 課題番号：21520431
 研究課題名（和文） Sidaama 語の文法の記述、及び意味論と形態統語論の理論的問題に関する研究
 研究課題名（英文） Description of the Grammar of the Sidaama Language, and Studies on Semantic and Morphosyntactic Issues involving this Language
 研究代表者
 河内 一博（Kawachi Kazuhiro）
 防衛大学校・総合教育学群・准教授
 研究者番号：00530891

研究成果の概要（和文）：

本研究は、2009-2011 年度の各年度の約 1 ヶ月の現地調査により集めた（特にテキストの）データをもとにして、Sidaama 語（エチオピア中南部で話されているクシ語族の言語）の文法の記述とこの言語に関する理論的諸問題の研究を行った。文法の記述としては主に研究代表者の博士論文の改訂を進め、意味論と形態統語論の問題を言語類型の観点から扱う（主に英語による）論文発表および学会・研究会発表を行った。

研究成果の概要（英文）：

This study conducted both a description of the grammar of Sidaama, a Cushitic language of Ethiopia, and investigations of theoretical issues involving this language. Based primarily on the text data that I collected during my fieldwork in the Sidaama Zone for about a month during each of the academic years 2009-2010, 2010-2011, and 2011-2012, I made great progress in revising my Ph.D. dissertation, especially in the grammatical descriptions. During this grant period, I also wrote papers, principally in English, and gave conference presentations on semantic and morpho-syntactic issues from a typological perspective.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	800,000	0	800,000
2010年度	700,000	0	700,000
2011年度	700,000	0	700,000
年度			
年度			
総計	2,200,000	0	2,200,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：言語学、言語類型論、記述言語学、形態論、統語論、意味論、アフリカ言語学

1. 研究開始当初の背景

日本では、データの記述と理論のバランスが崩れて言語の研究がなされているという傾向が存在している。一方で、アフリカで話されているほとんどの言語のような研究が

あまり進んでいない言語を扱う場合、言語現象の記録と観察にとどまらず言語学の理論的な問題を扱った研究は少ない。他方で、理論的な問題を扱う言語学は、日本語以外には英語を初めとするヨーロッパの言語を中心

に扱い、その他の言語は考慮に入れずに言語一般について議論をしようとし、欧米の特定の理論の紹介や弁護または修正にとどまることが非常に多い。日本の言語研究の進展のためには、言語の種類と普遍性を考慮に入れ、理論的に偏ることなく特に研究の遅れている言語の現象を記述することから出発して、言語の様々な現象についての理論的な問題に取り組み、英語で発表をすることにより世界的な水準で発信をしていく必要がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、これまでに深い研究があまり成されていない Sidaama 語（エチオピア中南部のクシ語族の言語）の文法の記述と理論的諸問題の研究である。

最大の目的は、理論的に中立な立場から Sidaama 語の文法の記述をすることで、具体的には、私の Ph. D. ディサテーシオン（Kawachi 2007）の改訂を徹底的に行ない、完璧なものを完成し出版することである。第二の目的は、言語類型的な視点から Sidaama 語に関する意味論と形態統語論の理論的問題を扱った論文を書くことである。

これらの目的を達成する手段として、Sidaama 語のテキストのデータを収集する。この言語のテキストを記述したものはほとんどないので、記述すること自体価値があり、ディスコースの理論的問題の研究対象としても非常に魅力がある。まずは多くのテキストを詳細に正確に記述することから始めて、文法の改訂版に含め、論文にもデータとして使い、さらに今後ディスコースの理論的問題に取り組む出発点にする。

3. 研究の方法

各年度約一ヶ月間合計3回のフィールドワークにおいて、データ収集は主にシダーマ・ゾーンの中心地アワサで行ない、前もって準備した言語形式の使用に関して質問をし、関連したデータを集めた。テキストのデータの収集の調査は、シダーマ・ゾーンの農村地域で行ない、民話などを老人が語ったものを録音してから、コンサルタントの協力により文ごとに分析した。フィールドワークでは、基本的に1日に8~10時間、コンサルタントからデータを集めた。1日の残りの時間は、データの分析と質問の準備に当てた。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

Sidaama 語の文法現象の理論的問題に取り組むという点では、（特に英語による）論文発表と学会・研究会発表を多く行うことができた。フィールドワークで多くのデータを取ることができ、発表の準備と論文の執筆の過程でデータをまとめ、Sidaama 語の文法の理

解をさらに深めることができた。

Sidaama 語の文法の改訂はかなり進展したが、完成することができていない。その主な原因は、以前理解していたよりも方言の違いが大きいことがわかり、一つの方言グループを集中的に扱う必要が出てきたということと、テキストのデータの分析に予想以上に時間がかかっていることである。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

主に英語による発表を行ったので、言語学に国際的な貢献をすることができたと思う。また、理論的な問題を扱った言語学をしたという点でアフリカ言語研究への貢献ができたと思う。

(3) 今後の展望

これまで通りに Sidaama 語の文法現象の理論的問題を扱う論文を書きながら、同時進行でフィールドワークで収集したデータをもとにして Sidaama 語の文法の記述の改訂を続けて行く。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計4件）

- ① Kawachi, Kazuhiro (2012) External Possessor Constructions in Sidaama. In Bochnak, Ryan, Peet Klecha, Alice Lemieux, Nassira Nicola, Jasmin Urban, and Christina Weaver (eds.) *Proceedings of the 45th Annual Meeting of the Chicago Linguistic Society* (2009), Volume 1: the Main Session, 319-333. Chicago, IL: Chicago Linguistic Society. (発表要旨のみ査読あり)
- ② Kawachi, Kazuhiro (2011) Noun Phrases without Nouns in Sidaama (Sidamo). In Sutcliffe, Patricia (ed.) *LACUS Forum 36: Mechanisms of Linguistic Behavior*, pp.25-35. Houston, TX: Linguistic Association of Canada and the United States. (査読あり)
- ③ Kawachi, Kazuhiro (2011) Are Events that are Expressed in Verb-framed Languages Using Non-characteristic Patterns Really Macro-events? An Examination of Motion Expressions in Sidaama (Sidamo). 『日本認

知言語学会論文集第 11 卷 (Papers from the 11th National Conference of the Japanese Cognitive Linguistics Association), pp.114-124. (発表要旨のみ査読あり)

- ④ Kawachi, Kazuhiro (2009) Can Ikegami's Typology of DO- vs. BECOME-languages Go beyond English-Japanese Contrastive Linguistics to be a General Framework for Semantic Typology? An Investigation of the Semantic Structures of Sidaama (Sidamo), a Cushitic Language of Ethiopia. 『日本認知言語学会論文集第 9 卷 (Proceedings of the Ninth Annual Meeting of the Japanese Cognitive Linguistics Association)』 pp.339-349. (発表要旨のみ査読あり)

[学会発表] (計 18 件)

- ① 河内一博 (2012 年 3 月 27 日) Sidaama 語 (エチオピア、クシ語族) のビデオ実験の報告. 国立国語研究所「空間移動表現の類型論と日本語: ダイクシス表現を含めた総合的対照研究」研究会 於国立国語研究所 (東京都)
- ② 河内一博 (2012 年 3 月 24 日) 日本語に特有と言われる現象はアフリカにもある: シダーマ語 (エチオピア) の場合. 国立国語研究所 第 5 回 NINJAL フォーラム「日本語新発見 — 世界から見た日本語 —」 於一橋記念講堂 (東京都)
- ③ 河内一博 (2012 年 1 月 28 日) 有標主格言語であると記述されている言語では本当に主格が有標か? — Kupsapiny 語 (ウガンダ、ナイル) と Sidaama 語 (エチオピア、クシ) の場合. 麗澤大学言語研究センター 2011 年度「対照言語学若手の会」シンポジウム「格の対照」 於麗澤大学 (千葉県)
- ④ 河内一博 (2011 年 10 月 22 日) Sidaama 語と Kupsapiny 語における他動性. 国立国語研究所「述語構造の意味範疇の普遍性と多様性」研究会 於京都大学 (京都府)
- ⑤ Kawachi, Kazuhiro (2011 年 7 月 14 日) Can Talmy's Motion Typology be Expanded to

Visual Motion? An Examination of Different Types of Motion Expressions in Sidaama (Sidamo), a Cushitic Language of Ethiopia. 11th International Cognitive Linguistics Conference at Xi'an International Studies University on July 14, 2011, Xi'an International Studies University, China.

- ⑥ 河内一博 (2011 年 7 月 9 日) Sidaama 語 (エチオピア、クシ語族) の予備的ビデオ実験の報告と Kupsapiny 語 (ウガンダ、ナイル語族) のビデオ実験の計画. 国立国語研究所「空間移動表現の類型論と日本語: ダイクシス表現を含めた総合的対照研究」研究会 於東京大学教養学部 (東京都)
- ⑦ 河内一博 (2011 年 4 月 23 日) Sidaama 語の体言締め文 (人魚構文) (Noun-concluding construction (mermaid construction) in Sidaama.) 国立国語研究所「形容詞節と体言締め文: 名詞の文法化」研究会 於国立国語研究所 (東京都)
- ⑧ 河内一博 (2011 年 1 月 22 日) Sidaama 語 (エチオピア中南部のクシ語族の言語) の社会文化的背景・使用状況と文法構造の特徴 (他のアフリカの言語、日本語、英語の文法構造との比較). NPO 法人「地球ことば村—世界言語博物館」ことばのサロン講演会 於慶應義塾大学三田キャンパス (東京都)
- ⑨ Kawachi, Kazuhiro (2010 年 10 月 30 日) Syntactic Linkage and Semantic Relations in Multi-verb Constructions in Sidaama (Sidamo). 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所「節連結に関する通言語的研究」研究会主催 International Workshop on Cross-linguistic Studies on Clause Combining. 於東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (東京都)
- ⑩ Kawachi, Kazuhiro (2010 年 9 月 11 日) Are events that are expressed in verb-framed languages using non-characteristic patterns really macro-events? An examination of motion expressions in Sidaama (Sidamo). 日本認知言語学会第 11 回大会 於立教

- 大学（東京都）
- ⑪ Kawachi, Kazuhiro (2010年7月24日) Is Sidaama (Sidamo) a marked-nominative language? *37th Forum of the Linguistic Association of Canada and the United States* at McMaster University, Hamilton, Ontario, Canada.
- ⑫ 河内一博 (2010年5月23日) Sidaama 語（エチオピア、クシ語族）の節の連結パターンの概観. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所「節連結に関する通言語的研究」研究会 於東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（東京都）
- ⑬ 河内一博 (2010年4月2日、3日) Sidaama (Sidamo) 語の空間移動（主体移動、客体移動、抽象的放射移動）の表現の理論的問題点. 神戸大学大学院人文学研究科・神戸大学文学部 松本曜研究室移動表現研究会移動検討会 於神戸大学（兵庫県）
- ⑭ 河内一博 (2010年3月20日) Kupsapiny 語と Sidaama (Sidamo) 語に関する理論的問題. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 「言語接触と系統継承：大湖地域から南部アフリカにかけて話されているバンツー諸語と隣接言語の記述研究」研究会 於東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（東京都）
- ⑮ 河内一博 (2009年9月12日) Sidaama (Sidamo) 語の名詞句に関する理論的問題. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 「言語接触と系統継承：大湖地域から南部アフリカにかけて話されているバンツー諸語と隣接言語の記述研究」研究会 於東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（東京都）
- ⑯ Kawachi, Kazuhiro (2009年8月8日) Noun Phrases without Nouns in Sidaama (Sidamo). *36th Forum of the Linguistic Association of Canada and the United States* at Pitzer College, Claremont, California, USA.
- ⑰ 河内一博 (2009年6月20日) Sidaama (Sidamo) 語の“目的語”人称接尾辞によ

って表される文法関係. 日本言語学会第138回大会 於神田外語大学（東京都）

- ⑱ Kawachi, Kazuhiro (2009年5月12日) Can Ethiopian Languages be Considered Languages in the African Linguistic Area? The Case of Highland East Cushitic Languages. *The International Conference of the Global COE Program 'Corpus-based Linguistics and Language Education': A Geographical Typology of African Languages jointly with an international workshop on Khoisan Linguistics*. 於東京外国語大学（東京都）

〔図書〕（計2件）

- ① 河内一博 (2012) シダーマ語. 塩田勝彦（編）『アフリカ諸語文法要覧』 pp. 55-67. 溪水社
- ② Kawachi, Kazuhiro (2011) Can Ethiopian Languages be Considered Languages in the African Linguistic Area? The Case of Highland East Cushitic, particularly Sidaama and Kambaata. In Hieda, Osamu, Christa König, and Hiroshi Nakagawa (eds.) *Geographical Typology and Linguistic Areas – with Special Reference to Africa*, 91-107. Amsterdam: John Benjamins.

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.kazuhirokawachi.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

河内 一博 (Kawachi Kazuhiro)
防衛大学校・総合教育学群・准教授
研究者番号：00530891

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし